

スーパー種雄牛「第十六光重」の特性

農業研究センター 畜産研究所 生産技術開発部
担当者：守田 智、佐藤敬明、松本道夫

研究のねらい

肉用牛の改良を促進し、生産物である牛肉の品質向上と斉一化を図るためには、遺伝的能力の優れた種雄牛を利用することが最も効果的である。

このため、育種的価値の高い優秀な種雄牛と繁殖雌牛との交配によって得られた候補種雄牛を産肉能力検定に供し、産肉能力の優れた種雄牛の選抜を行い、肉用牛の改良を進める。

研究の成果

肉質(脂肪交雑)に優れた種雄牛「第十六光重」を選抜した。

1 選抜した種雄牛の概要

(1)生年月日	平成8年1月26日
(2)産地、生産者	下益城郡砥用町 後藤 弘幸
(3)血統	
父方	光重 ET
	父方:第二光丸
	母方:第五つるくさ
母方	第七さつき
	父方:第十重川
	母方:さつき

2 産肉能力間接検定成績の概要

(1)肉質を代表する脂肪交雑は、BMS 3.1と歴代最高である。(これまでの最高はBMS 2.3)

(2)枝肉重量 423kg、ロス芯面積 52cm²、バラ厚 7.1cm、皮下脂肪厚 2.3cmであり、肉量においても優れる。

普及上の留意点

交配にあたっては、雌牛の血統を考慮すること。

表1 直接検定成績 (単位: kg, %)

1日当たり 増体量	365日齢 補正体重	1kg増体当たり のTDN量	粗飼料 摂取率
1.37	505.5	5.16	31.8

表2 間接検定成績 (単位: kg, cm², cm)

体 重		1日当たり	枝肉	ロース	皮下	BMS
開始時	終了時	増体量	重量	芯面積	バラ厚 脂肪厚	
315.0	668.0	1.07	423.2	51.5	7.1 2.3	3.1

注) 検定終了時の月齢: 20.8ヶ月



写真1 第一六光重



写真2 間接検定調査牛の枝肉